

## 立ち話

小野澤繁雄

側溝の踏み板つづきそそそとやや走り気味中坊は朝

風の筋<sup>すじ</sup>みるごとくなり縦横にうすら凍りし沼のおもては

上越妙高で乗る人少しここからはどこまでを乗る人たちだろうか

ここにまた家かこむ塀はなれても一つが一つわずかにも囲む

糸魚川すぎんとしつつ丘に似る暗きうねりはそこにあるもの

元々がそうか残りしやこの園はゲートボールにかがみ女子らのみ

崖線の上に来たれば上に住む家のひとつに雨戸外れて

竹林がなにか迷惑になってると住民ら立ち話はそれか

鳥がいるときいないとき人がいるときいないとき一日の園に

紅梅がややに多いか梅林のなかの歩みにマンサクの花